

埼玉県議会議員 無所属刷新の会

なかやしき

しんいち
慎一

Vol.4



合することなく、教員が教員としての強い自覚をもち毅然として教育活動にあたるようになるのではないかと考えますが。



しかし、6年を経過した今、私も同じように感じ、現場の先生方のご意見の中にも教壇の復活を願う声もあるという現実が教壇の必要性を物語っていると考えます。教え導く役目の教員と導かれる側の児童生徒、この立場の違いを明確にする。教壇を復活させることにより、児童生徒に迎合することなく、教員が教員としての強い自覚をもち毅然として教育活動にあたるようになるのではないかと考えますが。

十二月定例議会
質問で取上げた
教育問題に
ズーム

教員が教員らしくあるための環境づくりについて

Q 現在の教室の様子は、私たちが慣れ親しんだ教室の様子とは様変わりしています。なんと、教壇が無くなっているのです。この状況は、平成16年の一般質問で鈴木弘議員からも指摘があり、当時の稲葉教育長は、「教師は教壇のあるなしにかかわらず、生徒にいたずらに迎合することなく、優れた指導力を発揮できる教員であるべきであり、そのような教員の養成に努めてまいりたい。」とのお答えをなさいました。

すシンボルであると考えます。一方、今日の小中学校では、多様な学習活動の展開や子どもたちの安全確保などへの配慮から、教壇を設置していない学校も多く、このような中、教員が優れた指導力を発揮するためには、教壇の有無に関わらず教員としての強い自覚と責任感、そして毅然とした態度をもって教育活動にあたることは、何よりも大切であると考えます。



前島教育長答弁要旨

A 教壇は、教え導く教員と導かれる児童生徒との立場の違いを示し、けじめある関係を示すシンボルであると考えます。一方、今日の小中学校では、多様な学習活動の展開や子どもたちの安全確保などへの配慮から、教壇を設置していない学校も多く、このような中、教員が優れた指導力を発揮するためには、教壇の有無に関わらず教員としての強い自覚と責任感、そして毅然とした態度をもって教育活動にあたることは、何よりも大切であると考えます。

再質問します！
意義を認めたとおっしゃる中で改善をしようと思わない……

平成23年度 埼玉県予算要望編成に関する要望書提出

鴻巣市 地元問題

- 子宮頸がん予防ワクチン接種に対する県費助成の実施
- 河川事業 元荒川親水事業の促進
- 主要地方道鴻巣・川島線の整備促進
- 主要地方道鴻巣・羽生線の歩道整備事業の推進と国道17号宮地交差点の右折帯の整備促進
- 主要地方道行田・蓮田線の特定交通安全施設等整備事業の推進
- 主要地方道さいたま・鴻巣線の歩道整備の早期完成
- 乳幼児医療費補助額の所得制限の廃止
- 幼稚園就園奨励費補助の県費補助の導



- 行財政改革
- 総務関係
- 警察・危機管理防災関係
- 産業労働関係
- 農業関係
- 環境関係
- 都市整備関係
- 県土整備関係
- 教育関係
- 福祉・保健・医療関係
- NPO活動関係



平成22年10月26日
無所属刷新の会は、知事に県政要望書を提出しました。

各市町村問題を含め197項目の要望をしました。

現在、2月定例議会を前に、上田知事による来年度予算査定が26日まで行われています。未来型投資に重点を置くといわれる23年度予算(案)、しっかりと審議してまいります。

なかやしきの思い!

再質問の答弁で、教壇の持つ意義を十分認識していると語り、各学校の実状を見ながら必要な指導も加えていくと約束した教育長。私は、人として目線の高さを同じにすることと、学びの場である学校で、教え導く側である教員と、教えを受ける側である生徒とのあるべき姿を築く事は全く別の問題だと思つ。

進捗状況

河川整備 元荒川(水辺再生事業)

県土に占める河川面積の割合が日本(3.9%)の本県。計画的な川の再生と環境保全を図るため平成20年度から様々な取り組みを進めている。リーディング事業である水辺再生



なかやしき慎一 プロフィール

- 昭和34年 8月 1日 鴻巣市生まれ
- 鴻巣市立東小学校・鴻巣中学校卒
- 城西大学附属川越高等学校卒
- 東京経済大学経営学部卒
- 1999年度(社)鴻巣青年会議所 理事長
- 平成14・15年度鴻巣東小学校PTA会長
- 平成17年度鴻巣中学校 PTA会長
- 平成17・18年度鴻巣PTA連合会 会長
- 鴻巣市雷電町町内会 副会長
- 鴻巣市水泳連盟 会長
- 鴻巣市体育協会 副会長
- 鴻巣市硬式テニス協会 副会長
- 上田政治塾運営委員会 委員



100プランは、4年間の間に100か所の水辺を整備するもので、本市では、元荒川の竹林公園付近の水辺が選ばれ、昨年度から2年間をかけて事業が進められ、2月13日には完成披露会を迎えることとなった。市の進める、「ふるさと総合緑道計画」ともコラボレーションを図り、今後は、市民の皆さんが憩いや安らぎを感じ、自然とふれあえる川へと育てていかねばならない。市民の皆さんの力で、私たちが子どもころ魚釣りや川遊びを楽しんだ元荒川を復活させましょう。